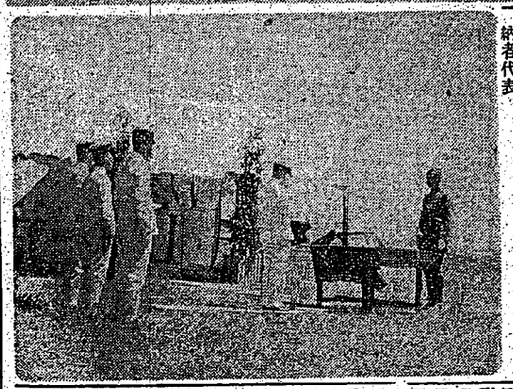
夕刊 臺灣日日新報 昭和十七年九月二十六日（土曜日） 第一万五千二百八十七號 （一）
（第二類）（昭和十一年五月九日第三種郵便物認可）
臺灣日日新報 夕刊 九月二十五日 九月五日 一日二回 臺灣日日新報社 臺北市榮町一丁目二番地 電話二局一〇番 振替臺北一七番

秋季皇靈祭の御儀
畏し 天皇陛下御親拝
三特使訪問 椿外交部長を

【東京二十四日發同盟】秋季皇靈祭の中日たる二十四日午前十時より宮中賢所の儀、同十時半より神殿の儀、午後一時より神殿の儀、同二時より御三方陵の儀、同三時より神武天皇陵の儀、同四時より先帝三方陵の儀、同四時半より皇靈殿の儀、同五時より神殿の儀の順序にて滯りなく執行あらせられ、天皇陛下には御親ら御拝あらせられた

【東京二十四日發同盟】秋季皇靈祭の中日たる二十四日午前十時より宮中賢所の儀、同十時半より神殿の儀、午後一時より神武天皇陵の儀、同二時より神殿の儀、同三時より先帝三方陵の儀、同四時

島民赤誠の軍用機
五機陸軍へ獻納
きのふ晴れの獻納命名式



獻納機命名式　㊧獻納機の雄姿　㊨陸軍大臣代理 安藤軍司令官に 獻納の辭を述べる 獻納者代表

もり給れる感激に燃えつゝ、この日愛機命名式の行はれた飛行場から、かけ離れた一時十分頃、山田基吉、日高信六郎、日高信六郎、日高信六郎

臺灣新民報 昭和十七年九月二十六日（土曜日） 第一万五千二百八十七號 （一）
（第二種郵便物認可）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）

帝國海軍大西洋に進出

樞軸海軍と協同作戰上の意義極て重大

【東京發同盟至急報】大本營發表（二十五日午後四時三十分）一、帝國海軍兵力の一部は大西洋に進出し樞軸海軍と協同作戰行動に從事中なり 二、今次帝國海軍の大西洋獨作戰區域內における作戰行動は獨海軍兵力一部の印度洋における作戰行動と相俟つて樞軸海軍協同作戰上その意義極めて重大なり 三、大西洋方面作戰中の帝國潛水艦の一隻は最近歐洲の獨某海軍基地に寄港し再び作戰海域に向け出動せり

餘裕綽々の我が海軍

敵聯合國は一大恐怖

【ベルリン二十四日發同盟】日本海軍當局の發表は帝國海軍の大西洋進出を明かにしたものであるが、これは帝國海軍が既に一九四一年七月、佛印、インド洋方面の戰略的要地を占領し、更に一九四二年一月、英領マレー半島の要衝シンガポールを攻略し、蘭印の資源地帶を制壓して以來、その餘裕綽々たる實力を以て、印度洋、太平洋、インド洋、大西洋の戰略的要地に進出し、英米聯合國の海上交通路を遮斷し、これを壓殺しつつあることを明かにしたものである。

帝國海軍は既に一九四二年二月、スラバヤ沖海戰に於て、英米蘭豪聯合艦隊を殲滅し、爪哇の制海權を確保すると共に、同年三月、印度洋に進出し、錫蘭島コロンボ、トリンコマリー兩軍港を空襲して、英東洋艦隊の主力を印度洋より驅逐し、更に四月、印度洋に於ける通商破壞戰を展開して、英國の對印援助を遮斷し、印度の獨立を援助する態勢を整へたのである。

我が巨鯨獨基地へ

逞し雄姿を讃歎大歡迎

【ベルリン二十四日發同盟】日本海軍の潛水艦が「ドイツ潛水艦の基地に入港した」と傳へられてゐるが、これをいち早く報じたのはデーニッツ大將の「大西洋の戰ひ」と題する論文であつた。デーニッツ大將は、ドイツ潛水艦の戰果や北米東岸へ向つて進撃してゐるドイツ潛水艦隊の動きなどについて詳しく述べてゐるが、その中で日本潛水艦の活躍ぶりについて次のやうに述べてゐる。

「日本の潛水艦隊は、ドイツ潛水艦隊と協同作戰を行ふために、ドイツ潛水艦の基地に入港した。日本の潛水艦隊は、ドイツ潛水艦隊と同樣、大西洋の戰ひに於ける新しい戰術を學ぶために、ドイツ潛水艦隊の基地に入港したのである

社說

スト市の攻防戰
いまや酣
ソ聯邦の運命を決する一戰

一

秋のひぐれかなを告げるとともに、愛人の開けはなや年の獨ソ戰場、殊にスターリングラードの攻防戰に關聯せられるに至つた。いまでもなく、十月に入れば獨逸軍の對ソ聯邦の戰略を以つてしても獨の最後の前に苦しくその動力は低減されることはこれに從事するところであり、それまでにスターリングラードをもつて、へるとぶやできたらば來年の開戰する劇的攻防に關聯するのである。獨ソ聯邦としては、その關聯者スターリン氏の名に於いて、その名譽を賭けるであろうし、十數名大いに關ふとこにもなるであろう。從つて、この多數の犧牲でスターリングラードを死守することは、從つて獨逸軍の戰略を決するものソ聯邦の運命を決するものといふべく、又國際にとつても世界上の問題とさへいふべきである。

二

しかして、スターリングラードの攻防戰は、獨ソ關係とも、ともに關聯に從がられない關係となつて來たのである。だが、今日まで獨逸軍の戰略を察するとき關聯攻略の目的は、スターリングラードを死守することとともに、その後方連絡線であるヴォルガ河の確保にあつたことは明瞭である。從つて獨逸軍の戰略を察するとき關聯攻略の目的は、スターリングラードを死守することとともに、その後方連絡線であるヴォルガ河の確保にあつたことは明瞭である。從つて獨逸軍の戰略を察するとき關聯攻略の目的は、スターリングラードを死守することとともに、その後方連絡線であるヴォルガ河の確保にあつたことは明瞭である。

三

かく考えるとき、スターリングラードの攻防戰を通じてみられるソ聯邦の運命は、はたして大なる試練に立つものであるとともに、獨逸軍の戰略を如何に展開するかの關聯にあるといふべきである。

港灣勞務體制確立
〝海運能率〟の擴充強化へ
廿九日遞信部で港灣荷役問題打合

○水田遞信部長は廿九日午前十時から遞信部會議室に港灣荷役關係官會議を開き、港灣荷役の現狀と對策について打合せを行つた後、午後一時半から臺灣倉庫會社會議室に港灣荷役關係者會議を開き、港灣荷役の現狀と對策について打合せを行つた。

○水田遞信部長は廿九日午前十時から遞信部會議室に港灣荷役關係官會議を開き、港灣荷役の現狀と對策について打合せを行つた後、午後一時半から臺灣倉庫會社會議室に港灣荷役關係者會議を開き、港灣荷役の現狀と對策について打合せを行つた。

○水田遞信部長は廿九日午前十時から遞信部會議室に港灣荷役關係官會議を開き、港灣荷役の現狀と對策について打合せを行つた後、午後一時半から臺灣倉庫會社會議室に港灣荷役關係者會議を開き、港灣荷役の現狀と對策について打合せを行つた。

役馬で水田除草
臺南州當局

戰時海運管理令
擧國を支援　佐々波遞信部長歸任談

臺灣側の希望容認
農林省、督府の協定成る

臺灣住宅營團資金
六百萬圓の借入を完了

貿易業者整備統合
來神の菱沼貿易局長談

水產新體制

新高發展に備へ
五百萬圓の開發會社新設

機械油配給統制
明年一月から實施豫定

山地開發へ
新竹州警部で

大東亞電力
懇談會開く

援護の〝光〟に輝く更生

御自慢の温泉療法
〝湊海軍病院〟の見學記

若さこそ希望活かし

積極的に國民生活を明朗化

商況（廿五日）

株式

帝人新は新安値へ

北濱展望

臺灣總督府官報

用使院係名有

初めが肝心

榮養異變

胃腸　榮養　疲勞

錠劑　ともわか

若さこそ希望活かし
渾身君國へ努力盡せ
東條首相 學生道三訓を明示

【東京特電廿五日發】東條首相は二十五日午前九時より總理官邸に於ける學生三訓として

一、學問を修めるに當つての心構へ
一、體力の增强
の三點を擧げ大東亞の決戰に當つて學徒が國のため戰場の努力を擧すべきその使命と覺悟とを明示した

戰場に於からして戰ひ抜くしかり天地の榮ある發展を築き上げるべきは若さこそ希望であり力である、時はまた刻々に過ぎ去つて行くものである、學生諸君は一日も早く學業を切上げて速かに軍に入つて戰ひたいと焦慮してゐるやうに見受けられるが、學生諸君は今日の戰局を如何に認識してゐるか、戰局は今や重大な段階に入つてゐる、戰局の重大性は今後ますます加重されるであらう、この重大な戰局を打開し大東亞戰爭を完遂するためには、學生諸君の體力と學問とが必要なのである、諸君は今日の學業を全うすることが直ちに戰ひ抜く力となり、國家に對する最大の奉公となる

恩賜賞に輝く發明 小國民の"科學する心"

【東京發同盟】小國民の科學する心を振興する爲め國民學校では學校で發明したもの、又は學校の指導の下に兒童が發明したもの、又は學校の指導の下に兒童が發明したものの中から優秀なものを選んで文部大臣賞、東京府知事賞、東京市長賞、學校賞を與へることになつてゐるが、今回は第一回目であるので、發明品の數も多く、中には大人も及ばぬ素晴らしいものがあつたので二十七日と二十八日の二日間に亘り審査委員會を開いて慎重審査の結果、發明品二百六十三點、內八點を優秀賞として二十六日より二日間に亘つて發明品の中には大人も及ばぬ素晴らしいものが多く、發明者の中には國民學校初等科の兒童もあつたので審査委員會では非常に困つたが、發明品の中から特に優秀なもの十三點を選び、更に二點を加へて發明者十五名を二十九日より二日間に亘つて文部大臣賞、東京府知事賞、東京市長賞、學校賞を與へることになつた。

賣上代金を獻金

澎湖廳下の金屬類回收

澎湖廳下の金屬類回收は愈々本格的に實施されることとなつたが、廳下各地の回收實績は豫想以上の好成績を擧げ、去る十五日までに回收された金屬類は實に二十萬斤に達し、これが賣上代金は總額二萬圓に上つてゐるが、廳當局では之等の代金を全部國防獻金として獻納することとなつた。

出勤午前七時半

加藤臺中州知事局長は張り切る

臺中州知事加藤恒忠氏は二十八日午後一時の「午前七時だ」とラヂオが報ずる頃までに全部の職場に出勤するやう……その實踐を手初めに、二十九日から一週間に亘つて管下各地の官公署を巡回して、職場の實情を視察、時局認識の徹底を期することになつてゐるが、加藤知事は「午前七時半までに出勤すれば遅刻とは言はない」と言ひながらも「午前七時